

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月3日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山町2157番1 (電話) 099-298-4078
自己評価作成日	平成22年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaken-shakyo.jp/kohyo">http://kaken-shakyo.jp/kohyo</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年11月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人を母体としており、入居者の希望に合わせたリハビリテーションの通院支援や24時間体制で医療連携がとれ、緊急時対応の整備も図れ、バックアップ体制が充実している。職員は各種委員会に所属し毎月の勉強会や法人内研修・外部研修に参加し資質の向上に努めている。他グループホームとの交流や地域交流を通して、支え、支えられる関係作りに取り組んでいる。入居者一人々のペースに合わせ個別性を重視したサービス提供に取り組み、又、入居者様からいたわりや励ましの言葉をもらい感謝しながら、支え合う関係を大切にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・医療連携が確立されており、利用者の状況に応じたケアや医療が提供され、家族からの信頼があついホームである。
- ・事業所・職員は、サービスの質向上に積極的で、資格取得や研修・研鑽に取り組む、また職員間の仲間意識が強く共に支え合いながら、より良い支援に努めている。
- ・地域との交流が豊かで、近くの中学校から生徒会で育てた花の苗が届き育てている。小中学校の行事に参加したり、地域住民に認知症について啓発のために、ホームから情報発信をしている。
- ・食事時間は、食べ物がおいしく楽しいというだけでなく、心が落ち着き、居心地のよさを感じる機会となっている。
- ・排泄の自立に種々の工夫をし、利用者への温かな支援と家族の経済的負担軽減への配慮がなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、独自に地域の方との関りや「利用者本位」を念頭に入れ、入居者様にとって最善の介護・方向性について考え、ケアの統一を図っている。	「利用者の心の声を大切に・その人らしく地域で暮らす」との理念を、申送り時やミーティング時に確認し合い、利用者の自己決定を重んじた支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々への挨拶や会話は積極的に行っている。地域の行事や活動に積極的に参加し地元の方々との交流に勤めている。	学校の行事、地域の街頭物産販売をする馬場市への参加、行政が開く膝腰痛予防教室に参加している。花の苗が年4回学校から届き育てている。ホームの敬老会等に地域住民が参加し交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々に認知症を正しく理解してもらうためにホームの新聞を通して啓蒙や地域での研修会に参加し、ホームでの活動など地域に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では、構成委員の方々へ日々の活動状況・事故報告等を行い、又それぞれの分野の情報や意見を頂きサービスの向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議を定期的開催し、地域代表・警察・消防関係者・家族代表などが参加している。各面から出される意見要望を活かし、スプリンクラーの設置申請、救命ボランティア・応急手当普及員の資格取得など実現している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町が主催する研修会への積極的な参加を行っている。介護保険業務の円滑な遂行を図るためさまざまな相談事を各関係機関へ問い合わせ、助言等も含め協力を頂いている。	介護保険法上の運営のこと、生活保護関係、地域防災関係など、市の支所や関係機関・地域包括支援センターと連携を取り、協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を中心に定期的に全職員を対象に勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、各利用者様において、介助や言葉掛けが身体拘束に当たらないか等の検討会も行っている。	玄関に施錠がなく、自由に出入りできる環境を作っている。身体拘束廃止委員会を設置し、物理的拘束・精神的拘束・ネグレクトなど具体的に検討し、職員全員で拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を中心に定期的に虐待についての勉強会を行っている。虐待の定義を基に利用者様一人々当てはまるものがないか定期的に検討し注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学習委員会を中心に権利擁護についての理解を深めるため全職員を対象に勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書を基に家族の不安・疑問の解消に努め理解・納得できるまで繰り返し説明している。特に解約するまでの過程において定期的にカンファレンスを行い介護記録を基に日常の様子・状況・急変時等を含め理解・納得されるまで説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を玄関に設置したり、入居者様・家族の方より相談・苦情が言いやすい環境づくりに努めている。利用者様には定期的に、家族の方へは面会時に意見や要望等がないか聞き、意見が出たときには直ぐに対応している。</p>	<p>意見箱を設置しているほか、家族会を年2回開催し、意見・要望等を聞く場を作っている。また、運営推進会議には必ず家族代表も参加し、意見を交わしている。家族の面会時や電話等で日常的に気軽に要望等を聞き運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のスタッフ会議や、毎日の申し送り時、又、個別に意見を聞き、検討し業務改善等に反映されている。</p>	<p>会議や申し送り時に忌憚なく意見を交わせるようにし、個別の相談等は個別に聞いている。ケアの仕方やホーム便りについてなど出された事項については速やかに取り組み運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者が随時、ホームへ来訪し利用者との会話を持ったり、職員の業務内容や悩み等の把握に努めている。そして、職員が常に向上心を持ち積極的に働けるように職能評価を行っている。又、職員の資格取得支援を行うなど職場内でその資格を活かせる労働環境作りにも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の法人内研修への参加、又、外部研修に職員を交代で参加している。ホーム内でも、各種委員会による勉強会を行い、質の確保・意識の向上を図っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人グループ内の同事業所との定期的に交流・意見交換を行っている。グループホーム連絡協議会に加入し2～3ヶ月ごとの研修会への参加するなど交流の機会を持ち、その時、相談・助言を頂いている。又、地域の同業者とも情報交換を行いネットワークづくりに取り組んでいる。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談の際、本人様より生活暦・不安に思っていることなど、出来るだけお話していただき、又、ここでの生活など、詳しく説明することで不安を解消できるよう努めている。入居後直ぐは環境の変化などにより心身共に不安になりやすいので寄り添い・関りの時間を多く持つようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>電話での相談や見学の際、これまでの経緯や家族の思いや要望等をじっくりと聞き、安心して頂ける様、努めている。又、此処での生活等についての説明をしっかりとすることで不安の解消に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活暦や心身の状況・疾患等をよく把握して最優先のサービスが何かを見極め、医療機関との連携が図れるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の持っている力を引き出せるように、家事一般を共に行い、又、得意話の中から、様々なことを教わりながら、その方の思いに気づき・共感し、支える関係作りを築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常の様子、状況を定期的に報告し、情報共有に努め、家族の協力をもらいながら入居者様の支援を共に行い支えあう関係作りに努めている。イベント時には家族の方にも参加して頂き、共に楽しめるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場とのつながりが途絶えることのない様、定期的に外出支援を行い、又、家族の協力で外出が出来る様、働きかけている。	地域で暮らす馴染みの知人との継続的な交流ができるように、家族の協力をもらい外出支援をしている。馴染みの美容院や商店などに個々の状況をみながら外出し関係の継続を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や家事活動を通して皆が一緒に過ごせ、自然な形でふれあえる様、職員が間に入り、共通の話題を提供し、和やかな場を保てるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退去者がほとんどで退去後も見舞いに行き、本人や家族との関係を保ち、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わり、会話の中でその人の希望や意向を掴み、得られた気づきや家族からの情報を基に職員全員で検討し、情報共有することで本人の望む生活が送れるよう努めている。意思表示がなかなか出来ない方は、表情・幻想・仕草から読み取る様にしてしている。	困難な場合も含め、寄り添った支援の中から、できるだけ本人の選択を中心に意向や思いを把握するようにしている。また、家族の意見や職員の支援の中での気づきを職員間で検討し、本人本位で支援するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、本人・家族より生活暦等を把握し、又、担当ケアマネやソーシャルワーカー等より情報収集し、その人を把握した上で入居に繋げている。又、入居後も本人・家族より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや心身状態・出来る事、出来ない事等、記録に残し、全職員が確認し変化があればその都度、情報交換を行い常に現状を把握できるように対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向・希望を基にケアカンファレンスにて、気づきや対応等の意見を出し合い、又、各関係者からの意見も頂き現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時計画の見直しを行っている。	本人・家族の意向や医療機関等、関係者の意見を踏まえた介護計画を作成している。計画の見直しの基本は6ヶ月であるが、毎月個別のケアカンファレンス・モニタリングを実施し、状況に応じた計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態・変化・気づき等は その都度検討・意見交換を行い介護記録・個人ノートに記入し全職員が必ず目を通し情報共有をはかり、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物・理美容等は本人・家族の希望に柔軟に対応している。又、法人内の看護師による連絡体制を確保し、急変時における医療機関との連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流（小・中学校等）や公共の場の利用・各関係機関との関りや協力をもらいながら安全に楽しく生活できるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での受診は家族が付き添い、受診結果を聞き連携医療機関の主治医・看護師へ報告し連携を図っている。連携医療機関での定期・急変時の受診等、24時間体制で医療連携が図れている。	かかりつけ医での受診を支援している。通院距離等の関係で身近な連携医療機関での受診となることもある。かかりつけ医との連携は家族と共に取り合っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関より週1回看護師を派遣してもらい、日常の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。又、随時、電話や受診時、報告・相談し、指示をもらっている。24時間いつでも連絡できる体制である。緊急時の連絡・対応も整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者様が入院された場合、情報提供を病院へ行くと共に、本人・家族へ不安を抱かせないように、状況説明を行い、入院中も定期的に訪問し、本人の不安軽減を図ると共に、情報収集を行い、随時、家族へ状況報告を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時、本人・家族へ「見取り看護」の体制が出来ている旨の説明を行っている。その後も重度化や終末期のあり方についての話し合いを行い、本人・家族の意向の把握に努めている。法人内での協力体制を説明し、本人・家族の了解の上、方針を共有している。</p>	<p>入居時に、重度化や終末期についてホームとしての考え方を、入居者や家族に説明している。終末期について、基本的には医療的な延命措置を伴わない範囲での支援を考えており、協議を重ねて受け入れている。個々の状況変化時には関係者で情報を共有しながら支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアル及び緊急時の連絡体制を整え、スタッフ全員が熟知できるよう定期的に事例を基に勉強会を行っている。スタッフ全員、普通救命講習を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>各災害時の避難マニュアルを作成し各々の役割、通報の連絡体制を整えている。防災委員会を中心に毎月、勉強会や自主訓練を行い、訓練時は、近隣の方にも参加して頂き又、救命ボランティアに登録し地域との協力体制を整えている。</p>	<p>地震・水害・火災等のマニュアルを作成し、マニュアルを基に昼・夜間想定で、民生委員・駐在署・消防署・地域の関係者等の協力を得ながら訓練をしている。災害時の備蓄もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習委員会を中心に個人情報やプライバシーに関する勉強会（併せて倫理・法令遵守も含め）を行い、職員の意識向上を図り、定期的に検討会も行い確認・改善に努め、個々のプライバシーを傷つけない・羞恥心に配慮した対応を心がけている。	職員は入職時に個人情報保護の誓約書を提出し、基本姿勢はできている。利用者の尊厳とプライバシーに配慮しながら、排泄・入浴・整容・食事介助などさりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関りの中で、話しやすい雰囲気作りがけ、定期的に此处での生活やしたい事等の希望、嗜好調査等を個別及び集団で聞き、希望に添えるよう対応している。全てにおいて確認しながら自己決定できる様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが入居者様の気持ちを優先して支援している。レク活動等、強制せず、したい方にしていただいている。自室での時間を大切にテレビを見たり、休んだり一人々のペースで生活できるよう見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	出来る人は毎朝、化粧され、着る服も自分で選ばれ、おしゃれを楽しんでおられる。出来ない人にも着る服の確認・声かけし一緒に選んでいる。理美容は本人希望時に馴染みの店に行ったり、ホームにきてもらったりと支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、嗜好調査を行い、栄養士に相談しメニューに取り入れてもらい、又、菜園で取れた野菜を一緒に収穫し、下ごしらえ等する事が楽しみの一つとなっている。食事前には嚙下体操を行い、メニューの説明し楽しく食事が出来る様、配慮している。盛り付けや片付けなど一緒に行っている。	皆で一緒に食卓を囲む楽しい食事になるように、嗜好調査・食材の下ごしらえ・後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。個々の機能に応じた食事の形態も配慮されて、話題豊かな食卓となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士により栄養バランスのとれた献立を作ってもらい、個々に合わせた食事形態にしている。食事・水分摂取量をチェックして記録を撮り、情報共有し、摂取量が少ない時には、分食にしたり、代用品で補ったり、時間をずらす等の配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い一人々の力量に応じて見守り、又、不十分な部分は磨き直し等、介助している。口腔ケア時は必ずうがい薬を使用しうがいをしてもらい、就寝時は義歯消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らい、トイレの声かけ、誘導している。又、一人々の排泄パターンを把握し仕草等に気をつけ又、日中はなるべく尿パットをはずし、皮膚疾患を起こさないためにもトイレでの排泄が出来る様対応している。夜間、男性の場合尿意のある人は尿器を使用している	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切にしている。尿意・便意のない利用者にも排泄チェック表を使用し、トイレで排泄できるよう支援したり、排泄後清潔保持にも工夫をして、自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数や量・状態を把握し、水分補給や腹部マッサージなどで対応し、又、食事やおやつに繊維物を取り入れたり、牛乳を飲んで頂いたりして、できるだけ緩下剤等、薬を使わないようにしている。散歩や体操など、体を動かすようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本的に週3回であるが本人の子棒や皮膚の状態に応じて毎日でも対応している。入浴時は本人の希望に合わせて、好きな時間に入れるようにしている。入浴を好まれない人には、無理強いせずタイミングを見計らい声かけしている。	個々の希望を取り入れた入浴ができるように支援している。食事と入浴が楽しみという利用者が多く、それぞれの入浴毎に浴湯を入れ替えている。足浴を楽しむ人には足浴も準備している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様、努めている。本人の体調や習慣により昼寝等して頂いき、夕食～就寝時までの間、フロアでテレビを見たりお喋りしたりしてゆっくり寛いでもらっている。又、寝つけないときには一緒に暖かい飲み物を飲みながらお話ししたりと配慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書は個々のファイルと薬ケースに貼り、いつでも見れるようにしてある。カンファレンス時、個々の服用している薬について理解を深めている。投薬ミスがない様、チェック表を基に乗数・名前・日付・○食後の確認を行い、本人に手渡し、もしくは口腔内に薬をいれ、飲み込んだところまで確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々できることや経験を活かし俳句や絵画などの表現活動、家事や畑仕事・縫い物など本人の役割を感じて貰える様支援している。定期的に買い物に出掛け、各々の好きな物を購入し満足できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には散歩や外でお茶をとるなどしている。定期的な買い物や図書館への外出・外食など支援を行い又、家族と一緒に温泉や墓参り・デパート等に外出されている。季節ごとの催し物(花見・ソーメン流し等)や地域の催し物に出掛けられるよう支援している。	日常的には、2～3人で交代して周辺への散歩や、車でドライブに出かけている。家族の協力も得ながら利用者の希望や楽しみに合わせての外出をしている。図書館に本を借りに行ったり、買い物に出かけたり、リハビリ通院での外出など支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には家族の理解の下に持って頂いており、買い物の後等、職員と一緒に残高の確認を行っている。困難な方にはホームの金庫にお預かりし月初めに家族へ収支報告を行っている。買い物に行った際は、預かり金や本人持ちのお金で買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人がかきたい時に、電話がかけられるよう支援しており、ご家族から手紙を頂いた時には、個々の状態に応じて読んであげたり、手紙の希望があるときには代筆や見本を見ながら自分で書けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロア内の飾り付けや玄関やフロアーに季節の花を飾り、季節感を感じる様、配慮している。カーテンやよしす・グリーンカーテンにて光の調節を行い、目でも楽しめる様工夫を行っている。1日の中で時間を決め、温度・湿度の確認を行い調節している	玄関には花々や折り紙が置かれ、季節感がある。共用の空間は明るく清潔で、温度・湿度・採光・通気にも配慮がなされており、窓から田園風景が望め居心地の良い生活の場となっている。水を張った洗面器が置かれるなど、室内の乾燥を防ぐ優しい気配りがされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアーにて話をしたり、テレビを見たり等、思い々に過ごされ、居室でも一人の時間を大切に出来る様見守りを行っている。仲の良い入居者様同士お互いの部屋を行き来し、話をされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた家具や仏壇・馴染みの愛用品等、持ち込み利用前の生活が維持でき、安心して過ごせる様、配慮している。</p>	<p>居室には、それぞれの使い慣れた家具やテレビ、仏壇などが持ち込まれている。思い出の写真や身の回りの品物もあり、居心地よく過ごせる配慮がしてある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全てに手すりが設置しており又歩行の障害となる物を置かない様、安全に移動が出来る様配慮している。入口のドアやトイレ等、本人が覚えやすい目印となる物をつけたり出来るだけ自立出来る様工夫している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない